

官民協働による地域の稼ぐ力強化

- ・本ワークショップは、「官民協働による地域の稼ぐ力強化」を共通テーマに専門家である立命館大学経済学部 客員教授 金井 萬造氏の協力を得て、各自治体の産業、観光、まちづくりにおける課題を抽出し、意見交換を実施。

実施概要

日時：平成30年1月31日（水）

会場：大阪合同庁舎1号館
第1別館3階会議室

テーマ：官民協働による地域の稼ぐ力強化

参加者：・永平寺町、湖南省、王寺町、
橋本市の職員
・近畿管内の市町村職員
・金融機関職員
・内閣官房まち・ひと・しごと創生本部
事務局職員
・経済産業省職員（地域経済産業
グループ地域経済産業政策課）
・経済産業省 近畿経済産業局職員
（局長、地域経済部長、地域開発室）

有識者：立命館大学 経済学部 客員教授
金井 萬造 氏

発表自治体

福井県永平寺町

テーマ：中核産業を核とした観光資源の活用につながる
まちづくり支援

使用したRESASのデータ：人口マップ、産業構造マップ、観光マップ

滋賀県湖南省

テーマ：工業、農業分野における創造的・革新的な取組支援
使用したRESASのデータ：産業構造マップ

奈良県王寺町

テーマ：ターミナル・王寺駅のポテンシャルを生かしたにぎわい
づくりのための取組み

使用したRESASのデータ：産業構造マップ、まちづくりマップ、観光マップ

和歌山県橋本市

テーマ：地場産業であるパイル織物産業発展のための支援策
使用したRESASのデータ：産業構造マップ

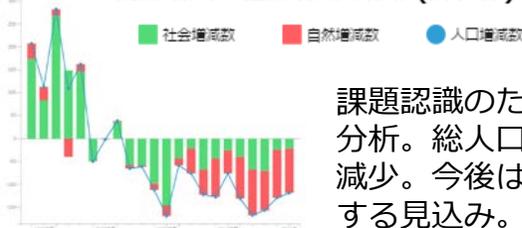
1 福井県永平寺町 「中核産業を核とした観光資源の活用につながるまちづくり支援」

- ・九頭竜川の名水、大本山永平寺といった地域資源に恵まれているが観光客数は横ばい。
- ・人口減少、高齢化が進んでいる。
- ・地場産業のうち最も比率の高い繊維工業の事業所数はピーク時に比べて大きく減少しているが、食料品製造業や飲料製造業（主に酒造）の事業所数には大きな変化がみられない。

現状分析：地域資源に恵まれているが、人口減少、高齢化が進行している

- 永平寺町に宿泊施設は少なく飲食店の付加価値額、労働生産性の特化係数も高くないが、周辺自治体（福井市、勝山市、鯖江市、あわら市、坂井市、越前町）を含めると観光地としての宿泊機能を備えており飲食店の労働生産性も高い。
- 製造業の事業所数は「繊維工業」「食料品製造業」の2分野で半分以上を占めている。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)



事業所数(実数)の推移



中核産業の現状把握のため製造業の事業所数を分析。繊維工業は事業所数の減少が顕著。



発表の様子
(平林 竜一 総合政策課長)

施策提案：地域資源を活かした観光客の取り込み

- 地域牽引事業者が九頭竜川の名水を活かした酒造り体験を核とした見学施設を建設するにあたり、条例改正や発酵技術のブランド化支援などを後押し。
- 旧京福電鉄線跡地の遊歩道に自動走行車両（カート）を導入し、周遊型観光ツアーを官民協働で企画するなど観光客の取り込みに向けた活動を展開。

2 滋賀県湖南市 「工業、農業分野における創造的・革新的な取組支援」

- ・付加価値額の6割以上を製造業が占める集積地だが、工場等の拡張余地が少なく、転出懸念がある。
- ・農業産出額は小さいが、種苗メーカーの研究所立地や食料品製造、酒造などの地域特性に恵まれている。
- ・地域未来投資促進法を活用し、基本計画の策定により、成長ものづくり・農林水産分野における高付加価値の創出と地域事業者への波及効果、地域経済の稼ぐ力の好循環を実現する。そのため、事業者ニーズを踏まえた事業環境の整備や人材確保・育成に対する支援などに向けた施策を実施していく。

現状分析：製造業が集積しているが、既存企業の拡張余地が少ない

- 当地域の強みは、近畿・中部及び北陸との交流拠点にあり、湖南工業団地を中心に工業が発展し産業が集積していること。
- 課題は、工場等の拡張余地が少なく、既存事業所の移転流出懸念があること。
- また、耕作地面積が狭く、農業産出額や付加価値額は少ない。地域農産品を使った特産化等の活用が不十分である。

RESASデータの一部



付加価値額は、製造業の割合が62.3%で、県や全国に比べ圧倒的に比率が高い。製造業の内訳では、鉄鋼業、化学工業、金属製品の比率が高い。

RESASデータの一部



食料品製造業の製造品等出荷額は、242億円で県内2位。また、食料品製造業の1事業所当たりの平均従業員数は60人と平均値を上回る。



発表の様子（谷畑 英吾 市長）

施策提案：企業間連携や六次産業化の推進等による成長ものづくり分野及び農業分野への支援

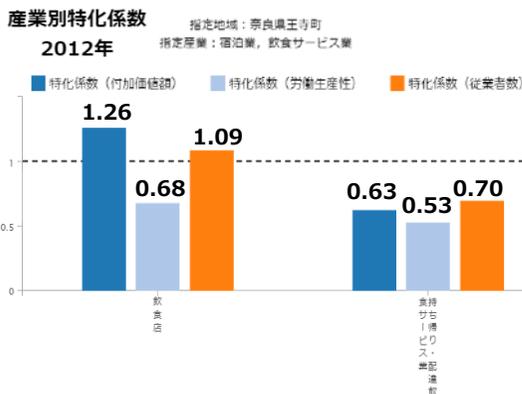
- 加工組立産業群への部品・部材供給を中心とした製造業（素材型産業）の集積や農業関連のインフラや伝統産業や農産品等の地域資源に恵まれている。
 1. 素材型産業や食料品製造業等の産業集積を活用した、創造的・革新的な成長ものづくり分野への支援
 2. みらい公園湖南（農業戦略拠点等）や地域資源を活用した六次産業化を含む農業分野への支援

3 奈良県王寺町 「ターミナル・王寺駅のポテンシャルを生かしたにぎわいづくりのための取組み」

- 乗降客数の多いターミナル駅を有し住宅地、商業地として発展してきたベッドタウンであり足元の人口は増加しているが、将来的に減少傾向で推移する見込み。
- 中・長期的な地域活力の維持・向上のため、ターミナル・王寺駅のポテンシャルを生かしたにぎわいづくりの観点から、今後のまちづくりにおいて必要かつ効果的な政策立案を目指す。

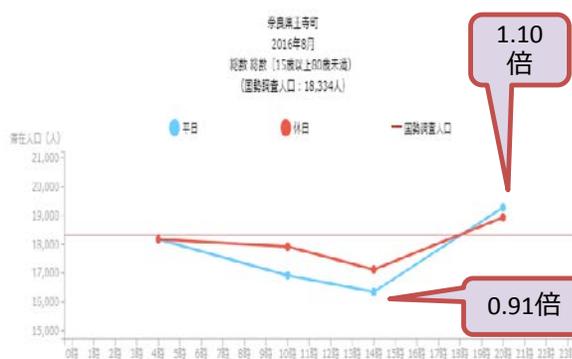
現状分析：飲食店の労働生産性と滞在人口の時間別推移

- 「飲食店」の労働生産性が低く、労働生産性向上のための取組みが必要。
- 平日の夜間（20時）の滞在人口率は1倍を上回っており、周辺市町居住者がターミナル機能を持つ王寺駅に多く滞在している。



課題把握のため「宿泊業、飲食サービス業」の労働生産性を分析。飲食店の労働生産性は低い。

滞在人口の時間別推移



ターミナル駅のポテンシャルを把握するため滞在人口の時間別推移を分析。夜間（20時）の滞在人口率は1.10倍となっている。



発表の様子（平井 康之 町長）

施策提案：ターミナル・王寺駅周辺部での都市機能の集約と宿泊施設の誘致

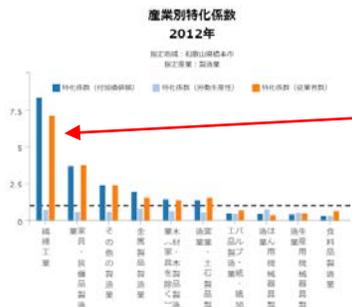
- 王寺駅周辺エリアに都市機能の集約を図り、西和地域の拠点としてにぎわいのある中心市街地の形成を図る。
- 王寺駅周辺へ宿泊施設を誘致し、王寺駅を基点とした周遊型観光を推進する。

4 和歌山県橋本市 「地場産業であるパイル織物産業発展のための支援策」

- ・地場産業であるパイル織物産業は、高品質で様々な分野の素材に使用されているが、製造品出荷額、事業所数はピーク時に比べて大きく減少している。・政策のポイント
- ・パイル織物事業者がそれぞれの得意分野を生かし、発展していくために、「推進協議会の設立」、「ブランド化戦略の見直し」、「最終製品化の推進」、「パイル織物の用途展開」、「補助金制度」を提案。

現状分析：パイル織物産業の労働生産性が低い

- 「繊維工業」（パイル織物産業）は、橋本市の製造業の中で企業数、従業者数、売上高、付加価値額それぞれにおいて最もシェアが高く、特に付加価値額と従業者数に関する特化係数が高い。
- 「繊維工業」の労働生産性の特化係数は付加価値額、従業者数に比べて低く、付加価値額を高めると同時に労働生産性の改善を図っていく必要がある。



繊維工業
 付加価値額：8.34
 労働生産性：0.75
 従業者数：7.11

パイル織物産業の現状を確認するため、製造業（中分類）の特価係数を確認。その結果、繊維工業の付加価値額、従業者数に関する特価係数が高い一方、労働生産性の特価係数は、他の特価係数に比べると低いことが確認できた。



発表の様子（森川 嘉久副市長）

施策提案：パイル織物産業のブランド化推進

- 「KOYAGUCHI PILE」ブランドの更なる発展を目指すため、ブランド化戦略を見直す。具体的には協議会が地域ブランド推進にノウハウを持つ総合プロデューサーを採用。
- 生地販売からステップアップし、付加価値の高い最終製品化を目指す。そのため最終製品の製造業者と連携するとともに、最終製品を手掛ける企業誘致に取り組むことで内製化を推進。